

平成31年度 英文学科 中期試験問題講評

今回の中期試験問題は大きくは、英文読解問題と英語での表現力をみる問題から構成されている。読解問題では、様々なジャンルの英文の内容を、限られた時間内に的確に把握し、その重要なポイントを適切にまとめる力を重視している。英語表現の問題は2種類ある。1つは、対話を成立させるために空所に英文を選ばせて話者の意図の理解と発話表現の判断力をみるものである。もう1つは、与えられたテーマや話題について自己の考えや伝えたい内容を、適切な英語で論理的に表現できる力をみるものである。

【1】

【出題意図】

取り上げた英文は2018年4月の『タイム』誌の記事で、中米からアメリカに移民した少女の実体験とその少女の現在の心境についてのものである。また、トランプ政権下のアメリカ合衆国における、移民に不寛容な空気も描かれている。受験生と同世代の若者が、国や地域が違ふと経験することがいかに異なってくるかについて、英文を読み解き感じ取って欲しい。また、現在の世界で現実に行っていることに日頃から関心を持ち、広く目を向けることが肝要である。また、必要な情報とそうでないものとを弁別する判断力とその情報を制限字数内で適切にまとめる表現力も重視した出題となっている。

【評価のポイント】

- 問1 高等学校で学んだ英文法の知識が生きた知識として身につけているかを本文の読解と連動した形でみた。
- 問2 アメリカへの移民に伴う、少女の実体験をそれぞれの確に把握し、それらを制限字数内で適切にまとめられるかをみた。
- 問3 少女の日常生活において重要な意味を持つ DACA の定義を本文に基づいてまとめさせた出題である。したがって、DACA についての知識をたずねた設問ではない。
- 問4 不法移民として不安定な状況に絶えずさらされる少女の心理状況を的確に把握できているかをみた。

【答案の傾向】

- 問1 本文の文脈に応じて適語を選び、かつ、その単語を最も適切な形に変えるといったプロセスが必要なため、すべて正解するのは難しかったと言える。

問2 すべての要素が入っている答案は多くはなかったが、概ねよく出来ていた。中には、アメリカに到着した後の苦難について書いている答案があった。

問3 「子供の頃 不法にアメリカに入国した」という点を理解していない答案が散見された。特に下線部について、「子供と偽って」といった誤解が見られた。

問4 答案を作る際に本文の該当箇所をただ単に逐語訳するだけでなく、その内容を的確におさえた優れた答案が一定数見られた。

【2】

【出題意図】

海洋ゴミが増加する中で、その解決の一助となる Seabin という装置を開発した経緯について書かれた英語の文章を題材として使用した。本文中の英単語を補ったり、装置の仕組みを日本語でまとめたり、本文中の単語の意味を英語でパラフレーズしたり、本来あった英文の位置を指摘させるなど、さまざまな形で本文全体の内容理解を測ることを意図している。

【評価のポイント】

問1 文章全体の流れから概要をつかみ、そこから局所的に英文を読み、意味を判断しながら（ ）に入る語の品詞を考えるという二重の捉え方ができているかどうか。

問2 Seabin の構造をとらえているかどうかの問いである。英文を読みながらその構造を自分の頭の中でビジュアルにイメージ化できているかどうか。

問3 与えられた英語の定義を読み、意味をとらえ、品詞を考えながら本文から該当する語をさがすことができるかどうか。

問4 ①～⑤が各パラグラフの最後に位置しているので、まずパラグラフ単位で概要をつかみ、次に各パラグラフ間の関係をつかむという英語の談話構造(discourse)をとらえられているかどうか。

【答案の傾向】

問1 (a)は名詞が入ることは分かった人が多かったが、適切な語を見つけられない人が多かった。(b)(c)は比較的よくできていた。

問2 全体としてよくできていたが、自分がとらえたイメージを採点者にうまく伝えようとせずに、書かれている英語を断片的につなぎ合わせて、つじつまを合わせたような答案も

散見された。

問3 概ねできていた。3は disposable が入るが、debris などを入れる人が散見された。

問4 a はできている人が多かった。b は主語を考えれば①以外に入る場所がないことが分かるはずだが、②や⑤に入ると考える人が少なからずいた。

【3】

【出題意図】

出身地域と文化的背景によるコミュニケーション・スタイルの傾向と、異文化コミュニケーションにおいて意思疎通を行う際にどのような誤解が生じる可能性があるかについて書かれた論説文を題材とし、内容の要点や詳細を理解する能力、英語で言い換える表現力、内容を十分理解したうえで要点をまとめる力をみた。

【評価のポイント】

1. 本文の情報を的確に捉えることができるか。
2. 本文内容の要点を的確に捉えることができるか。
3. 本文内容の具体的な筋にとどまらず、暗示的な意味、考え、関連性を理解できるか。
4. 本文内容の理解をもとに、英語で表現することができるか。

【答案の傾向】

問1 問題文（英語）と本文の情報を正確に捉え、多くが正答であったが、38 とする誤答も散見された。

問2 わかりやすい語彙の使用、要点の繰り返し、スライドでメッセージを強調するという3点を簡潔に表現している優れた答案が多くあった一方で、スライドを使用して伝えたいことを「強調して話した」という部分が抜けている答案も少なからずみられた。

問3 多様な表現の解答があり、文構造上も who で導かれる後置修飾を使用した以下のような優れた答案が多くあった。

例： (a person) who cannot understand what others really think

(a person) who cannot pick up the message someone is implicitly communicating

(a person) who cannot read the atmosphere in a conversation to pick up others' feelings
or thoughts

問4 本文と問題文の内容をよく理解したうえでの適切な答えと、表面的な理解だけの誤答が明確に分かれた。(4) の precise, simple and に続く語については clear, explicit, obvious 等、適切な同意語を選択できている答案が多かった。誤答には、(1)で著者エ

リン(Erin)の出身地(Minnesota)を Owens Corning 社の本社がある Toledo と取り間違えているものが散見された。(3)は、後置修飾の that use those languages の動詞 use と呼応する複数名詞となるところを単数で書いたものが多かった。

問5 問題文の意図を理解した適切な答えと、誤答が明確に分かれた。本文内容の要点を十分理解したうえで、「言外の意味」や「含意」等の表現を用いて具体的事例の関連性をうまくまとめて表現できている答案があった。一方で、下線部以下の部分を逐語訳したことにとどまり、主旨のつながりが不自然で内容が理解できているとは判断できないものも少なからずあった。また、言葉 (words)とメッセージ(message)を混同しているものも散見された。

【4】

【出題意図】

会話文を読み、文脈に応じて2人の話者の意図を理解すると同時に適切な発話表現を判断できる力をみた。

【評価のポイント】

文脈と会話の相手の意図を理解したうえで、適切な発話を選べるかどうか。

【答案の傾向】

概ねよくできていたが、一つの問題を間違えたために他の問題も連鎖的に誤答になるケースが散見された。

【5】

【出題意図】

The question took the form of a simple email that required an appropriate response with a somewhat more complex narrative structure. The aim of the question was to elicit a past-tense narrative with a degree of complexity in line with the 100 word requirement. Comprehension, imagination, and a reasonable command of vocabulary and grammar are all required to provide an adequate answer.

【評価のポイント】

The examination candidate was required to understand the question and give an appropriate response fitting with recall of a surprising event that happened in the past.

【答案の傾向】

A number of clear tendencies became obvious.

- (a) A relatively small number (approximately 10) of students failed to answer the question altogether. Presumably, the question was left until last and the students ran out of time. These students generally seemed to be struggling with the other questions as well.
- (b) A relatively small number (approximately 20) of students only provided partial answers far short of 100 words. Presumably, the explanation for this is the same as (a) above. In this case, also, it appeared that the students were weak overall.
- (c) A relatively small number (approximately 10) of students clearly did not understand the point of the question and failed to provide an appropriate response.
- (d) A relatively large number of students (in excess of 100) understood the point of the question and started off well but failed to develop the narrative in a sufficiently sophisticated manner, resorting to repetition.
- (e) A relatively small number (approximately 50) of students answered appropriately and developed the narrative but lacked the vocabulary and grammatical skills to offer a natural email reply.
- (f) A relatively small number (approximately 50) of students satisfied all of the conditions. There was some variability here regarding the level of vocabulary and grammatical appropriateness and this was reflected in the scores given.
- (g) Generally speaking, the question was successful in providing a clear demarcation regarding students' ability.